

資料 2

脱炭素先行地域

# 国の「脱炭素先行地域」への選定について

---

---

令和5年12月7日  
環境局



# 1. 「脱炭素先行地域」の概要

## ■ 「脱炭素先行地域」とは

2030年度までに、**民生部門（家庭部門および業務その他部門）の電力消費に伴うCO<sub>2</sub>排出実質ゼロを実現**するとともに、運輸部門等その他の分野も含めて温室効果ガス排出削減を目指す地域を、環境省が2025年度までに**少なくとも100カ所選定**するもの。  
選定された場合には、「地域脱炭素移行・再エネ推進交付金」が交付される

## ■ 地域脱炭素移行・再エネ推進交付金

交付対象	地方公共団体
交付率	原則 2/3
交付額	最大50億円/計画
交付期間	概ね5年間
支援内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・再エネ設備（太陽光発電設備等）</li><li>・省CO<sub>2</sub>等設備（高効率空調、LED照明等）</li><li>・基盤インフラ設備（エネルギー管理システム等）</li></ul>



## 2. 「脱炭素先行地域」の選定状況

- 第4回において**12提案**が選定。第4回までで、**74提案**が選定

年度別選定提案数（共同で選定された市町村は1提案としてカウント、括弧内は応募提案数）

R4		R5	
第1回	第2回	第3回	第4回
26 (79)	20 (50)	16 (58)	12 (54)

※赤字下線は第4回選定対象団体

北海道ブロック(6提案、6市町)  
札幌市、苫小牧市、石狩市、奥尻町、  
上士幌町、鹿追町

中国ブロック(8提案、9市町村)  
鳥取県 鳥取市、米子市・境港市  
島根県 松江市、邑南町  
岡山県 濑戸内市、真庭市、  
西粟倉村  
山口県 山口市

中部ブロック(10提案、1県10市村)  
富山県 高岡市  
福井県 敦賀市  
長野県 松本市、上田市、飯田市、  
小諸市、生坂村  
岐阜県 高山市  
愛知県 名古屋市、岡崎市・愛知県

九州・沖縄ブロック(11提案、1県29市町村)  
福岡県 北九州市他17市町、うきは市  
長崎県 長崎市  
熊本県 熊本県・益城町、球磨村、あさぎり町  
宮崎県 延岡市  
鹿児島県 日置市、知名町・和泊町  
沖縄県 宮古島市、与那原町

四国ブロック(4提案、5市町村)  
高知県 須崎市・日高村、  
北川村、梼原町、  
黒潮町

東北ブロック(9提案、2県9市町村)  
青森県 佐井村  
岩手県 宮古市、久慈市、紫波町  
宮城県 仙台市、東松島市  
秋田県 秋田県・秋田市、大潟村  
福島県 会津若松市・福島県

関東ブロック(15提案、1県16市町村)  
茨城県 つくば市  
栃木県 宇都宮市・芳賀町、日光市、  
那須塩原市  
群馬県 上野村  
埼玉県 さいたま市  
千葉県 千葉市、匝瑳市  
神奈川県 横浜市、川崎市、小田原市  
新潟県 佐渡市・新潟県、関川村  
山梨県 甲斐市  
静岡県 静岡市

近畿ブロック(11提案、1県11市町)  
滋賀県 湖南市・滋賀県、米原市・滋賀県  
京都府 京都市  
大阪府 大阪市、堺市  
兵庫県 姫路市、尼崎市、加西市、淡路市  
奈良県 生駒市、三郷町



脱炭素先行地域

### 3. 本市の計画提案（取組の全体像）

タイトル

109万市民の“日常”を脱炭素化

～「働く人」「暮らす人」「訪れる人」が  
豊かな時間を過ごせる“新たな杜の都”～

事業期間

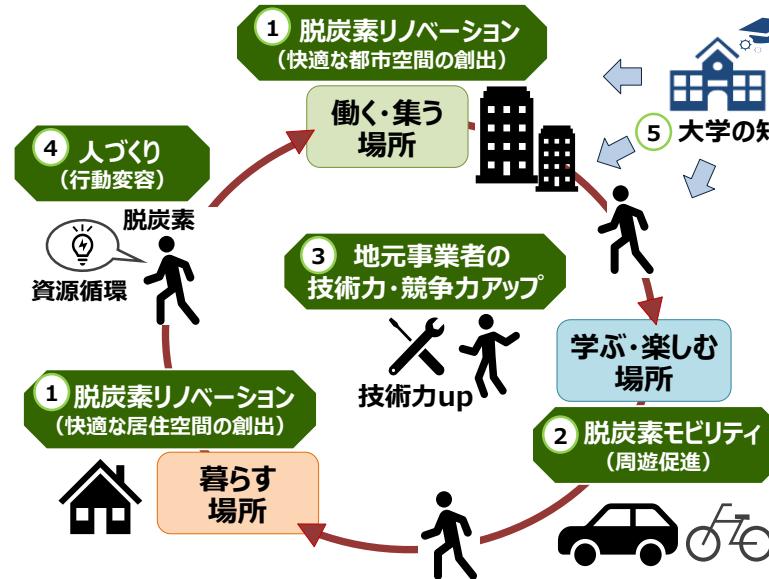
令和6年度～令和12年度（交付金の活用は令和10年度まで）

取組の  
方向性

- 2050年ゼロカーボン社会に向けて、**109万都市・仙台の日常を脱炭素化**
- 2030年以降を見据え、市民の意識醸成と**地元事業者の技術力・競争力向上**を図る

#### “日常”的脱炭素化に向けて

- ① 脱炭素リノベーションで、快適な都市空間を創出
- ② 脱炭素モビリティで、市内の回遊性を向上
- ③ 地元事業者の技術力・競争力をアップ
- ④ 脱炭素・資源循環の**人づくり**
- ⑤ 東北大学の知見を活用した取組の高度化



#### 定禅寺通エリア（働く・集う）

- 省エネ改修・ZEB改修など**業務ビルの脱炭素リノベーション**を実施また、ビルオーナー・地元事業者向け**ZEB改修体験会**を開催
- ゼロカーボンイベントなど脱炭素の「見える化」を促進
- **都市バイオマス資源**を活用し、サステナブルなまちづくりを推進

#### 泉パークタウンエリア（暮らす）

- 太陽光発電等の導入や断熱改修など**住宅の脱炭素リノベーション**
- 高度なエネルギー管理（DR/VPP）を既築住区で展開
- 地元工務店と連携し**リノベーション体験会**や**断熱スクール**を開催

#### 東部沿岸エリア（学ぶ・楽しむ）

- EVカーシェアなど、**脱炭素モビリティの導入**
- 太陽光パネルのリユースなど、防災・環境技術の実証フィールドに活用
- 観光施設等に**再エネを最大限導入**

#### 全エリア共通

- **地産地消型の再エネ電力メニュー**を新たに創設
- 省エネ推進など、市民の行動変容を促進
- 市営バス、ごみ収集車、配送トラックなど**運輸部門の脱炭素化**



## 4. 特徴的な取組

脱炭素先行地域

### 中小規模の"雑居ビル"の脱炭素化モデルを創出

#### ■エリアの特徴

- ・定禅寺通エリアは個人のビルオーナーが所有するテナントビルが多く、老朽化が進んでいる
- ・道路の再整備が予定されており、周辺エリアを含めた新しいまちづくりの機運が高まっている

#### ■先進性・モデル性

- ・**中小規模の"雑居ビル"の脱炭素化**は、テナントとの調整など、ビルオーナーにとってハードルが高いが、ゼロカーボン社会の実現に向けては、今、改修時期にあるビルの対応が極めて重要である
- ・営業を止めない「**使いながら改修**」の推進や、**地域団体・地元事業者等によるサポートの仕組み**により、オーナーが抱える課題を解決。そのプロセスも含め、他都市に展開できるモデルを創出する



定禅寺通の周辺景観



定禅寺通エリア内の雑居ビル

### 「都市バイオマス資源」の最大活用で、並木通のサステナブルなまちづくり

#### ■取組の概要

- ・カラスによる事業ごみの散乱が課題となっている定禅寺通に事業ごみ集積所を設置し、事業系生ごみを**バイオマス発電**に利用。収集には**EVごみ収集車**を導入する。また、ケヤキの剪定枝もバイオマス燃料として活用する
- ・**剪定枝の一部は市内で収集した家庭系プラと混合**しオリジナルタンブラーを制作。地域のイベントで活用する

#### ■取組の効果

- ・都心部における再エネ創出や、資源循環・サーキュラーエコノミーの推進、市民や事業者の行動変容促進、景観の改善や地域のブランド力アップによる定禅寺通ファンの増加といった、**多くの相乗効果**が期待できる
- ・**全国の並木通に展開**できる、サステナブル・エコロジーなまちづくりモデルを創出する



定禅寺通の事業ごみ散乱の様子

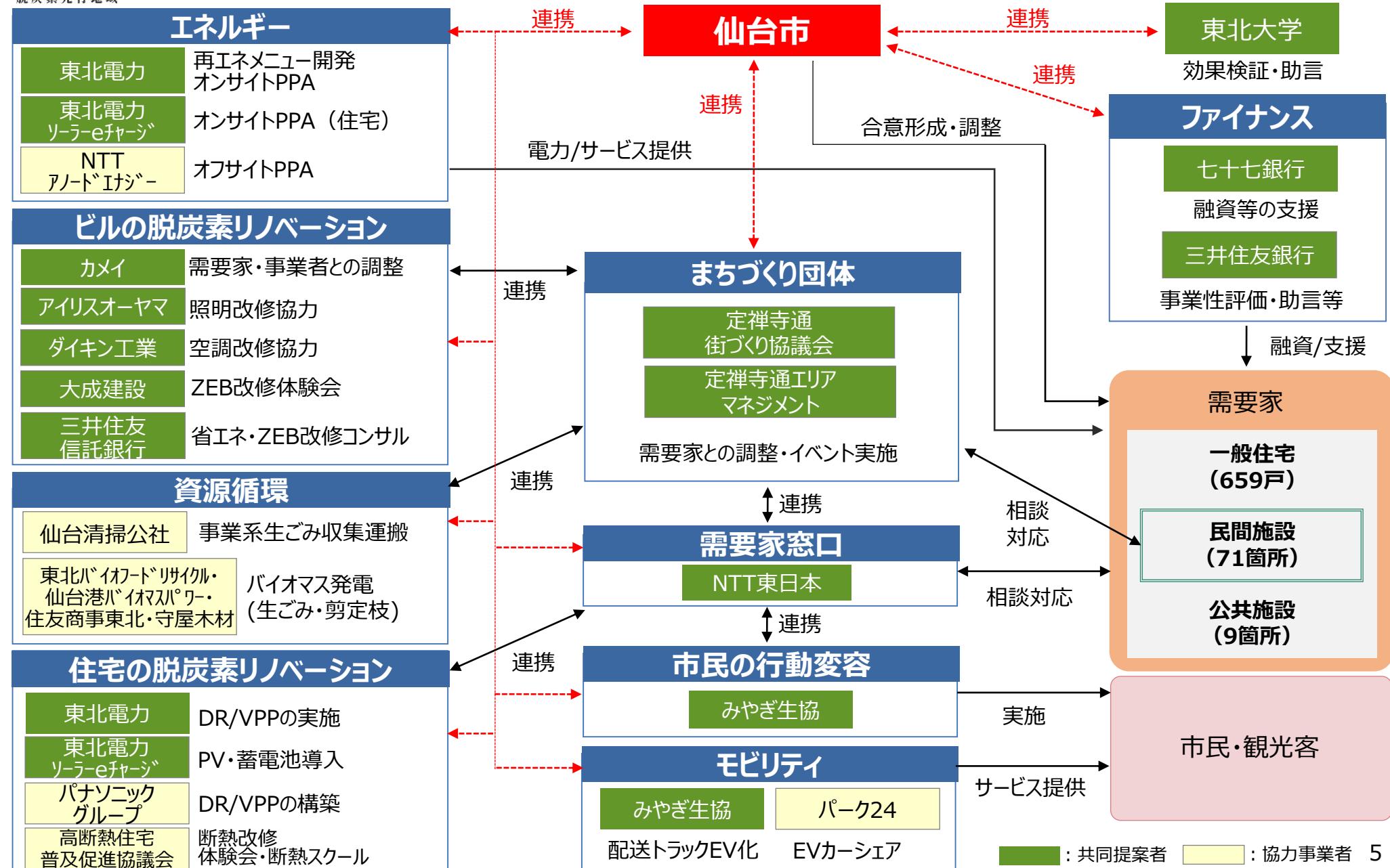


オリジナルタンブラーイメージ  
(出典：アサヒユウアスHP)



## 5. 推進体制

脱炭素先行地域



: 共同提案者 : 協力事業者 5